

みやもとちくのうち・みず・かんきょうほぜんくみあい

宮本地区農地・水・環境保全組合 (大町市)

・組織の活動面積	A= 81.91 ha
・組織の構成員数	約 150 人

組織形態	共同活動 ■	中山間直接支払 □	向上活動 □
取組開始年度	平成20年～	—	—

構成員	農家、農家組合、自治会、育成会、健康会、小・中学校PTA、消防団
-----	----------------------------------

宮本地区は大町市の南東部に位置し、北アルプスが一望できる景色が良い水田地帯です。地区内に鎮座する「国宝仁科神明宮」や平成21年に開園した「国営アルプスあづみの公園」のアクセス道路も整備されているため、道路沿いの遊休農地等を活用して、ラベンダーやブルーベリーを植えることによって地区内の景観が良くなり、通行する人の心が癒されると言う事を聞くようになりました。また、小・中学生と住民を対象にブルーベリーの摘み取り体験やラベンダーを使った手芸品作りの講習会も行っています。住民の中にはラベンダーの花を小袋に入れ、地域のお年寄りに配るといった活動もしています。

基礎活動としては、夏の作業が多いため他の行事と重なり、人を集めるのに苦労しています。毎年、計画的に水路の土砂上げを行っており、今まで手つかずだった農業用水路に多くの砂利が堆積しており驚きました。農道では、未舗装箇所での陥没ができ、砂利等による補修や法面が崩壊した路肩には土を入替えたりしています。

私たちは、この活動を通して、地区内の子供からお年寄りまで共に作業を行うことにより、みんなで農業の大切さを学んでいきたいと思っています。

元気出せ！ ずくだせ！ やるきだせ！



ブルーベリーの植付作業
遊休農地を活用した景観形成活動

環境保全活動

基礎活動



水路土砂上げによる保安全管理
農家・非農家による共同作業

大糸タイムス
平成22年6月20日付

ラベンダーで彩りを
仁科神明宮と国営公園玄関口 宮本地区

大町市の宮本地区農地・水・環境保全組合は、遊休農地を活用してラベンダーやブルーベリーを植えることにより、地区内の景観を向上させることを目指している。この取り組みは、地元住民だけでなく、観光客にも喜ばれるよう取り組んでいる。また、ラベンダーを使った手芸品作りなどの活動も行っており、地域住民の交流を促進している。

作業に汗を流す子どもたち



おいしい！！ブルーベリーの収穫体験



破損水路補修による保安全管理



ラベンダーのスティック作り
地域住民との交流



ラベンダーが開花
地域環境の保全